

リトアニア政治・経済月間情勢(10月)

概況

- ゲドビラス国会議長がガプシス国会第一副議長と連帯して辞任を表明したことで、グロウジニエネ労働党議員が新議長に就任し、ゲドビラス前議長は第一副議長となる国会要職の配置換えが発生。
- リトアニアが2014～15年国連安保理非常任理事国選挙に当選し、政府要人はバルト3国初の快挙を歓迎。
- ロシアによる差別的通関検査に加え、リトアニア産乳製品に対するロシアの輸入規制が開始。国内では、こうしたロシアの行為はEU東方パートナーシップに対する圧力との見方が流布。
- 日本外務省は、ビリニュスにおいてEU東方パートナーシップ及び東アジアの安全保障を議題とする日EU協力に関するシンポジウムを東欧研究所と共催。我が国から丸山欧州局参事官がパネリストとして出席し、当国政府関係者、国会議員、外交団、市民等約80名が参加。

内政

【1日】最高裁判所は、ポーランド語での標識や公共施設等の表記が憲法違反に当たり、二言語で表記を行う地域はリトアニア語のみの表記に改めるよう求める最終判決。

【2日】ゲドビラス国会議長は、ガプシス国会第一副議長(訴追中)に連帯して辞任を表明。3日、国会は両者の辞任を承認し、ゲドビラス議長の後任にグロウジニエネ労働党議員、ガプシス副議長の後任にはゲドビラス前議長を選出。グリボウスカイト大統領は国会の要職に訴追中の議員がいることは国家の印象を損ねるとして、今回の決定を歓迎。当地主要紙は、ゲドビラス議長の辞任の背景には、当初3日に実施予定であったガプシス副議長への不信任決議を回避するためにウスパスキフ元労働党党首が働きかけを行ったと報道。

【3日】政府は経済副大臣を1人増員し、4人とすることを決定。

【7日】ユスカ外務省政策計画局大使(前駐ハンガリー・リトアニア大使)は、検察に対し、電話内容の録音テープがYoutube上に投稿された問題に関する調査を要請。国会外交委員会は、外務省に対し、本件について外務省の実施した調査結果を提供するよう要請。

【8日】リトアニア・ラジオ・テレビ委員会は、ロシアで制作された第一バルト・チャンネルの放送内容がソ連侵攻による「1991年1月13日」事件に関して事実を歪曲したプロパガンダであるとして、放映停止を決定。

【14日】グロウジニエネ国会議長は、労働党の選出したパベディンスキエネ社会保障労働大臣、パバルキス教育科学大臣及びユクナ農業大臣に対し、各省の功績をまとめ報告するよう要請。24日、ビティナス社会保障労働副大臣及びトウシャス同副大臣が辞任。同副大臣らは辞任を要請されたと述べ、パベディンスキエネ大臣は副大臣の能力不足を指摘。グロウジニエネ議長は副大臣の入れ替えを歓迎すると発言。

【14日】世界保健機構(WHO)の発表した統計で、リトアニア人男性の自殺率は世界第1位との結果。

【22日】次期大統領選挙を5月11日、欧州議会議員選挙を5月25日に実施する法案が国会で可決。

【25日】労働党はシャウレイで発足10周年記念党大会を開催し、キリスト教政党(国会での議席なし)と正式に合併。合併後の党名は「労働党」と決定し、グロウジニエネ国会議長が新党首へ就任。ガプシス前党首には労働党名誉議長の地位が与えられた。パウラウスカス国会安全保障防衛委員会委員長を次期大統領選挙の同党選出候補とすることが正式に決定。

【26日】10月の支持率調査で、社会民主党は最も高い支持率を維持する一方、9月の前回調査で第2位であった野党祖国同盟の支持率は微減し第4位へ転落。グリボウスカイト大統領、次いでプトケビチュウス首相が最も高い支持率を獲得する構図に変化はなし。

外 交

【1日】在リトアニア中国大使館は、9月にダライ・ラマが当国を訪問した際にグリボウスカイト大統領等が面会を行ったことへの政治的な措置として、当初予定されていた商務部副部長の当国訪問が中止されたと運輸通信省へ通知。

【3～4日】リンケビチュウス外相はキシニョフ(モルドバ)を訪問し、EU東方パートナーシップ市民社会フォーラム第5回年次会合へ出席。ティモフティ大統領、レアンカ首相、コルマン国会議長、ゲルマン副首相兼外務欧州統合相とも会談し、ビリニウス首脳会合に向けた準備、両国関係等について協議した。

【8～10日】リトアニア公式訪問中のフレデリック・デンマーク皇太子は、グリボウスカイト大統領と会談し、経済及びエネルギー分野、国際場裏での協力等について協議。また、グリボウスカイト大統領と共に両国ビジネスフォーラムを開催。

【8～12日】マズローニス環境大臣は、水銀に関する水俣条約外交会議出席のため訪日。

【9日】オレカス国防相及びリンケビチュウス外相は、国会で「リトアニア主導ゴール県PRT「任務完了」と題する会議を主催し、リトアニアの8年間のPRT活動を総括(会議の中で白石大使挨拶)。

【15日】クリバス外務副大臣は、EU東方パートナーシップ6カ国(アルメニア、アゼルバイジャン、ベラルーシ、グルジア、モルドバ、ウクライナ)の当国駐在大使に対し、グリボウスカイト大統領、ファン＝ロンパイ欧州理事会議長及びバローゾ欧州委員会委員長の連名で発出された第3回東方パートナーシップ首脳会合(於:ビリニウス)への招待状を手交。

【17日】リトアニアが2014～15年国連安保理非常任理事国選挙に当選。グリボウスカイト大統領及びリンケビチュウス外相は、国連の基本的価値と原則を順守し、紛争防止と紛争地域の市民保護に努めるとの国際社会へのコミット及び抱負を表明。

【21日】リンケビチュウス外相は、ルクセンブルクを訪問しEU外務理事会へ出席。会合では、ビリニウスで開催されるEU東方パートナーシップ首脳会合について協議された。

【21～22日】リトアニア訪問中のアッパース・パレスチナ自治政府大統領は、グリボウスカイト大統領及びブトケビチュウス首相と各々会談し、中東和平プロセスについて協議。

【23日】オレカス国防相は、訪問先のブリュッセルでレベデフ・ウクライナ国防相と会談し、ポーランド・リトアニア・ウクライナ共同軍部隊の創設について協議。

【25日】グリボウスカイト大統領は欧州理事会へ出席し、各国首脳に対してビリニウスで開催されるEU東方パートナーシップ首脳会合に向けた準備状況を説明。ウクライナの課題やリトアニア及び東方パートナー諸国に対する外的圧力について強調した。

【25～29日】オレカス国防相は訪米し、25日にはヘーゲル米国防長官と会談。多国籍軍業務、技術協力、国防費等について協議した。

【28日】グリボウスカイト大統領は、27日実施のグルジア大統領選挙で当選確実となったマルグヴェラシヴィリ氏に祝辞を送り、ビリニウス東方パートナーシップ首脳会合への出席を招請。

【28日】ブトケビチュウス首相はオスロで開催された北欧・バルト諸国(NB8)首相会合へ出席し、NB8協力の重要性及びリトアニアのEU議長国としての任務と展望を強調。

【28日】グリボウスカイト大統領及びリンケビチュウス外相は、リトアニア訪問中のファビウス仏外相と各々会談し、戦略的パートナーとしての両国協力、EU東方パートナーシップ首脳会合、若年層雇用問題等について協議。

【29日】グリボウスカイト大統領及びリンケビチュウス外相は、リトアニア訪問中のガルシア＝マルガージョ・スペイン外相と各々会談し、両国関係、エネルギー安全保障、多年度財政枠組み(MFF)合意、EU東方パートナーシップ首脳会合等について協議。

【29日】国会でEU全議会会議(COSAC)50回記念会合が開催され、グロウジニエネ国会議長、ブトケビチュウス首相、COSAC創設者であるファビウス仏外相、コックス元欧州議会議長他が出席。会議では、EU東方パートナーシップ首脳会合及びEU・ウクライナ連合協定に焦点が当てられた。

【30～31日】リンケビチュウス外相はハンガリーを公式訪問し、マルトニ・ハンガリー外相と会談した他、ヴィシエグラード4カ国、オーストリア、トルコ、西バルカン外相との会合へ出席。

【31日】グリボウスカイト大統領は、バルト三国大統領年次会合に出席し、イルベス・エストニア大統領及びベルズインシュ・ラトビア大統領と会談。会合では、エネルギー、軍事安全保障、EU東方パートナーシップ首脳会合等について協議された他、三国大統領はダイセルブルーム・ユーログループ議長と会談し、ユーロ圏及びEU全体の財政状況、ラトビアとリトアニアのユーロ導入に関する展望について協議した。

経 済

【1日】カリーニングラードとの国境でロシア通関が実施していたリトアニア貨物車両に対する差別的検査が一時的に停止されたものの、2日には再開。リトアニア道路運送連合協会は、運送業界への損害が広がっていると懸念。7日、ロシア連邦消費者権利保護・福利分野監督庁は、衛生面及び疫病の観点からリトアニア産乳製品の輸入を一部中断する旨発表。8日、欧州議会はリトアニアの貨物車に対する差別的措置及び乳製品の輸入規制について協議。グリボウスカイテ大統領は、WTOへの異議申し立て準備を開始すべきと発言。14日、ロシアはWTOに対しリトアニア産乳製品の輸入規制について通知。16日、大統領は外務省、農業省、経済省、運輸通信省、関税局及び食料・獣医サービス局の代表と会談し、ロシアのリトアニア産乳製品に対する禁輸措置への対処法等について協議。21日、ロシア連邦消費者権利保護・福利分野監督庁は、リトアニア産乳製品の品質管理制度を監督するため当国へ視察官を派遣。30日、プトケビチュウス首相はメドベージェフ露首相と電話会談を行い、ロシアのリトアニア産乳製品に対する禁輸措置等について協議し、問題解決のため両国政府間委員会の活動再開を提案。

【2日】政府は、財務省の策定した2014年予算案を承認。16日、シャジュウス財務大臣は、国会へ同予算案を提出。

【29日】世界銀行はビジネス環境ランキング2013を発表し、リトアニアは183か国中17位との結果(2012年は27位)。

エネルギー(含むビサギナス原発プロジェクト)

【5日】グロウジニエネ国会議長は、プレスとのインタビューでビサギナス原発計画への不支持を表明し、昨年10月の国民投票の結果を尊重すると発言。

【8日】アンケンバウアー・シェブロン・ヨーロッパ社社長は、当国の炭化水素資源開発に関する法的枠組み作りが完了していないため、シェブロン社がリトアニア西部のシェールガス調査・採掘に関する入札を辞退する旨発表。グリボウスカイテ大統領は、当国のエネルギー独立に向けた戦略的プロジェクトの1つが困難な状況に陥ったと悲観。

【9日】ネベロビッチ・エネルギー大臣は、プトケビチュウス首相へ原発新設に関する投資家4社の合意書を提出。プトケビチュウス首相は、本件計画の改善可能性について政治レベルで協議し、11月のバルト3国首相会合で政府間合意について協議すると発言。

【21日】日立製作所及びリトアニア・エナジー社は、原発以外のエネルギー分野における協力に関する覚書へ署名。

【22日】リトアニア訪問中の田中日立製作所副社長は、プトケビチュウス首相及びネベロビッチ・エネルギー大臣と各々会談。プトケビチュウス首相は、リトアニア政府がビサギナス原発の競争力強化及び原発以外の分野への日立製作所の協力を期待する、同原発建設計画は欧州ネットワークとの同期化やバルト3国共同発電等の課題解決及び地域パートナーに大きく依存すると発言。ネベロビッチ大臣は、日立製作所に対してエネルギーネットワークの同期化とビサギナス原発統合に必要な調査への参加を要請。

日本との関係

【2日】白石大使は、ビリニユス大学アジア研究センターに対する外務大臣表彰の表彰状授与式を開催。同式典にはバニース学長代行、ベイノリウス・アジア研究センター所長他同センター職員が参加。

【3～28日】在リトアニア日本大使館はビリニユスにて和紙造形アーティスト美野定雄氏の作品展示会を開催。3日の開会式典には美野氏及び白石大使が出席。

【11日】日本外務省は、リトアニア外務省及び国会の協力を得て、リトアニア国会においてEU東方パートナーシップ及び東アジアの安全保障を議題とする日EU協力に関するシンポジウムを東欧研究所と共催。我が国から丸山欧州局参事官がパネリストとして出席し、白石大使が開会挨拶を行った。当国政府関係者、外交団、国会議員、研究者及び学生等約80名が参加し、シンポジウム前には丸山参事官及びユオトカ国会外交委員会委員長による共同記者会見も実施された。

【14～18日】東京工業大学及び日立製作所は、カウナス工科大学の協力を得て原子力工学及びビサギナスに建設予定の原子炉の設計に関する講義を開催。当国教育関係者、学生等約200名が参加。さらに、14日には東京工業大学・カウナス工科大学間及び日立製作所・同大学間で各々人材教育に関する協力協定が締結。

【22～24日】JETRO及び日系企業16社からなるビジネス・ミッションが来訪し、プトケビチュウス首相及びトレチョーカス経済副大臣を表敬訪問。ビリニュス、カウナス、クライペダでリトアニア企業を訪問した他、空港、港湾局、経済特区等を視察した。

【29日】在リトアニア日本大使館はチュルリョーニス基金と共催で、日本・リトアニアの芸術・文化交流事業「チュルリョーニス・カップ2013」を開催し、両国関係の発展に貢献したビルティス文化大臣、カマイティス元駐日大使、クビリエーネ・ロストロポーヴィッチ財団理事長の3名を表彰。

この資料は、リトアニアの政治・経済情勢を中心に各種報道、発表をとりまとめたものですので、記載事項の信憑性まで確認したものではありません。

記載事項は在リトアニア日本大使館の見解を示すものではなく、特定の団体・個人の利益を代表するものではありません。

